



マイナンバーカードの保険証利用促進で 電子処方箋もスムーズに！

POINT:マイナ受付を行った患者さんには、電子処方箋の発行を前提に推奨！

紙の処方箋での発行か、電子処方箋での発行かの希望を患者さんに尋ねると、患者さんが困惑することもあるため、マイナ受付を行った患者さんには電子処方箋を前提に説明を実施。

POINT:マイナ受付で同意が得られた患者さんの過去の薬剤情報は必ず確認！

薬剤情報から、患者さんの疾病、健康状態、血圧などを考え、より良い診療に活用。

【参考】大塚眼科クリニック（神奈川県）

一実践している電子処方箋で発行する際のポイントー

1. マイナ受付を行った患者さんに対し、診察後、処方するお薬を説明する際に、医師から「**電子処方箋でお薬を出します**」と伝える。紙での発行か、電子での発行か患者さんに**希望を尋ねることで、かえって困惑**させてしまうため、**医師から電子処方箋を前提にして伝えることが重要**。
⇒ 「処方箋も紙から電子でできるようになって進んでいるんですよ」と伝えると、抵抗感をもたれることが無い
2. 薬局でも当院と同じように**マイナンバーカードで受付**をすれば、調剤してもらえることを伝える。
⇒ 医療機関でマイナンバーカードでの受付を経験することで、患者さんが薬局での受付にも迷わない。
3. **電子処方箋も、実際に患者さんに一度使ってみていただき、理解いただくことが重要**。

大塚眼科クリニックでは、マイナンバーカードの保険証利用を積極的に推進しています。

https://cases.iryohokenjyoho-portal.site/jp/onshi/clinic/cases/case_03.html



院長
大塚宏之さん

マイナンバーカードで受付をされた患者さん（本人の同意がある場合）は、**必ず過去の薬剤情報を確認しています**。
薬剤情報から、患者さんの疾病、健康状態、血圧などを考えていて、眼科であれば、高血圧や糖尿病の薬を服用されていれば眼底を詳しく診るにつな갑니다。手術歴もわかるので、診療には確認必須になりました。
また、緑内障のβ遮断薬がまれに全身の血圧に作用しうするため、血圧をコントロールする薬を服用している患者さんには処方注意することができます。**反対に、他院では、例えば、内視鏡の際に抗コリン薬を投薬するかどうかの判断時、緑内障の薬を服用しているかをきちんと確認してもらうことができます**。
まだ併用禁忌のアラートがなかったことはありませんが、**併用禁忌もチェックできるというのは、医療安全のためにとっても重要なことです**。



薬局でも問題なくマイナンバーカードで受付や、電子処方箋に基づいた調剤が行われている

マイナンバーカード・電子処方箋を一緒に推奨ください。過去の薬剤情報をぜひ診療へ活用ください。